

備後国の神島の浜にして、調使首、屍
を見て作る歌一首 并せて短歌

三三三九番

玉^{たまほこ}梓^の 道^{みち}に出^いで立^たち あしひきの 野^の行^ゆき山^{やま}行^ゆ
き にはたづみ 川^{かはゆ}行^ゆき渡^{わた}り いさなとり 海^{うみ}路^ぢ
に出^いでて 吹^ふく風^{かぜ}も おぼには吹^ふかず 立^たつ波^{なみ}も
和^{のど}には立^たたぬ 恐^{かしこ}きや 神^{かみ}の渡^{わた}りの しき波^{なみ}の
寄^よする浜^{はま}辺^へに 高^{たか}山^{やま}を 隔^{へだ}てに置^おきて 浦^{うら}ぶちを
枕^{まくら}にまきて うらもなく 臥^ふしたる君^{きみ}は 母^{おもち}父^{ちち}が
愛^{まなこ}子^こにもあらむ 若^{わか}草^{くさ}の 妻^{つま}もあるらむ 家^{いへ}問^とへ
ど 家^{いへ}道^ぢも言^いはず 名^なを問^とへど 名^なだにも告^のげず
誰^たが言^{こと}を したはしとかも とる波^{なみ}の 恐^{かしこ}き海^{うみ}
を 直^{ただ}渡^{わた}りけむ